

# 萱町

## Kaya-machi



昭和3年、上毛電鉄開通時の中央前橋駅



**おじいちゃん**：今日は萱町に行ってみよう。

**ボ** **ク**：なんて読むの？

**おじいちゃん**：「かやまち」と呼ぶんだよ。

**ボ** **ク**：いつからこの町名があるの？

**おじいちゃん**：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は天川原村と言っていたんだけど。昔は、芽屋町、萱屋町と言っていたんだよ。そして、萱町となったんだよ。

**ボ** **ク**：今はどこになるのかなあ。

**おじいちゃん**：萱町は広瀬川右岸側にあたる立川町大通り東の諏訪橋あたりから前橋中央駅東の桃井橋までの間の界限で、細長くのびたまちなね。先日訪ねた榎町や立川町と隣接しているところだよ。

**ボ** **ク**：なんでそういう町名になったの？

**おじいちゃん**：屋根葺（やねぶき）職人が多く住み、萱葺（かやぶき）の家が多かったところから、萱町って付けたそうだよ。

**ボ** **ク**：萱町だった様子を見てみたいよ。

**おじいちゃん**：明治初年頃までは、ほとんど田んぼであつたそう。明治20年頃には、広瀬川から水を引いたという車ッ堀という掘割があつたそうで、この流れを利用して水車が掛けられたそう。また、この水車を利用した精米所が建ち、いくつかの製

糸工場があつたそう。他のまちもいくつか、こういった風景があつたそうだけど、水の都まえばしの歴史を物語っているようだよ。先日訪ねた立川町の繭市場の盛り上がりに関わり、この界限の製糸も相当地活気があつたんだ。各家々の土間に繭（まゆ）の山があちこち、うず高く盛られていて、糸をくる機械の音が通りまで響き、また、なんともいえない匂いを漂わせていたそう。そして、中流くらいの製糸工場が季節毎の相場に神経を使いながら、繭の選択や糸の艶（つや）に念を入れていたんだ。このような過酷な労働の中、夕刻ともなれば、笑い声をたてながら、お洒落をした若い女工さんたちが活動館や小間物店、夜桜の公園へ足を向けていたんだ。また、夕方になると、バイオリン弾きが来て、女工さんに楽譜を売って、歌も教え、女工さんは糸をひきながら、その歌を唄ったものだよ。

**ボ** **ク**：糸のまちなまえばしの情緒が漂うようだね。

**おじいちゃん**：その後、萱町はどう変化していったの？  
**ボ** **ク**：糸のまちなまえばしの情緒が漂うようだね。  
 その後、萱町はどう変化していったの？  
**おじいちゃん**：明治21年立川町に繭市場が開設され、明治27年紺屋町に米市場が開設され



昭和 30 年代、諏訪橋より千代田通りを望む  
千代田通りを挟んで向かって右側が立川町、左側が萱町



今でも街角にひっそりと佇む萱町出世稲荷

**ボ** ク…一軒、格式のある古い医院があるよ。

**おじいちゃん**…また、このまちは、他のまちに比べて、たいへん医院の多い医師のまちだったんだよ。萱町は、まえばしの鬼門だといわれ、切った、張ったの医者はい、なんて話をする人もいるそうだよ。

**ボ** ク…今もまちの裏通りを歩くと、色々な小料理屋さんがあるね。

たりして、この付近が歓楽街化され、賑わいが増してくるようになり、これらの隣接するまちの裏通りには小料理屋さんや並んできたんだよ。そして、先日訪ねた紺屋町、横山町、榎町、立川町と隣接して中心街となったんだよ。さらに、広瀬川を隔てて昭和3年上毛電鉄の開通に伴い、前橋中央駅が開設され、一躍活況を呈するようになり、商店街が栄えるようになったんだよ。

**おじいちゃん**…昔からある医院だね。

**ボ** ク…萱町は、製糸のまちでもあり、医者もまちでもあり、そして中心街の一部とする歓楽街だったんだね。それにしても、中心街にしては、先日訪ねた紺屋町、横山町、榎町、立川町と比べて、ひっそりとしたまちのようだね。

**おじいちゃん**…もともと、静かな、そして清潔な感じのするまちだったんだけど、大きな敷地を擁する製糸工場や病院があったことにより、商店が繁盛する余地がなかったのだろう。そこが同じ中心街でも、隣接する他のまちと異なった雰囲気になっていった要因だろうね。今は、他のまちと隣接して歓楽街化されている一方、まちの北に、広瀬川の河畔緑地遊歩道が整備されていて、水と緑が豊富で、静寂のあるまちだね。

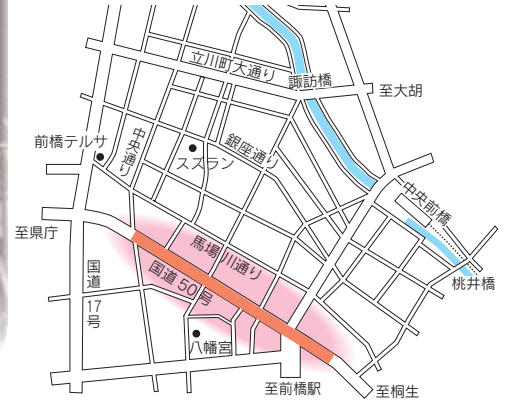
**ボ** ク…ところで、萱町には神社仏閣はあるの？  
**おじいちゃん**…まちの北西端あたりに、稲荷社があるよ。昔、武士や町人の出世を祈願したというところで、出世稲荷と言ったよ。今でもまち角にひっそりと祀られているよ。

**ボ** ク…町名は消えてしまったし、萱草の家も製糸工場もなくなってしまったけど、広瀬川の河畔緑地遊歩道を歩くと、広瀬川の水音に癒されたり、遊歩道沿いの樹木の緑が美しく、心地よいまちになっているし、また、まち角にお稲荷様が残っているの、ボクとしてはうれしいよ。

**おじいちゃん**…では、次回は本町に行ってみよう。

# 本町

Hon-machi



明治40年代の本町通り

**おじいちゃん**：今日は本町に行ってみよう。

**ボ** **ク**：なんて読むの？

**おじいちゃん**：「ほんまち」と呼ぶんだよ。

**ボ** **ク**：いつからこの町名があるの？

**おじいちゃん**：江戸時代からあるんだけど、江戸初期は天川原村とっていただけど、江戸初期はなくなったけど今も町名が変わらず、残っているまちだね。

**ボ** **ク**：本町はどこになるのかなあ。

**おじいちゃん**：国道50号線の一部である本町通り界限で、前橋駅前通りを北上したら差路から西へは中央通り南側入り口付近までの一帯だね。

**ボ** **ク**：昔の本町の様子を見てみたいよ。

**おじいちゃん**：本町は、織維都市として江戸期天保2年から生糸の購買をやった歴史を持つまえばしの、その草分けのまちだったんだ。そして、ここはまえばしの繭（まゆ）、糸市場の本場であった。本町通りは、大きな店構えをした商人の家が軒を連ねていて、荷物を積んだ馬車が連なっていて、また、商人を乗せた人力車も東西南北に行き交い、取り引きにおける商人たちの駆け引きがあり、まえばしを代表する市であったんだ。そして、四九の市といって、毎月四の日と九の日に市が開かれたんだ。特に、一月九日の初市は、もっとも賑わったそうだ。現在も毎年、この日に初市まつりが開催されているよね。さらに、本町通りは、沼田街道から江戸街道への道筋として、本陣や問屋などもあつて宿場の役目も果たしていたんだ。

**ボ** **ク**：初市まつりは、ここからきていたんだね。そして、今も本町通り沿いに旅館がある

のもわかるよ。でも、まちの表情が変わっているよ。

**おじいちゃん**：このまちは、戦災復興により金融街として整備されたんだ。でも、生糸業から金融業に変わった事は偶然ではなく、商業資本の基盤をもっている事には変わりはないまちだと思っよ。

**ボ** **ク**：確かに、本町通り沿いには銀行が点在しているね。その他に何かあるの？

**おじいちゃん**：現在ある前橋プラザ元気21の付近は、明治21年に明治天皇が東北御巡幸のおり、お泊りになった洋風建築の生糸改め所で、今も千代田通りを北に下りた途中に行在所跡としての記念碑が建てられているよ。

**ボ** **ク**：生糸改め所って何？

**おじいちゃん**：当時、蚕種の値段も急騰し、まえばしと周辺の養蚕地帯は好景気に沸き返った。生糸の産地、まえばしの名は外国商人に目をつけられ、あれば売れる状態に、まもなく供給が追いつかなくなり、不良品を混ぜて送ったり、暴利をむさぼる輩も出てきたので、前橋藩は生糸商人の保護と、生糸の品質保持のために、この生糸改め所を設置し、直接、監督にあたり共ニ莫加金を徴収することにしたそうだ。

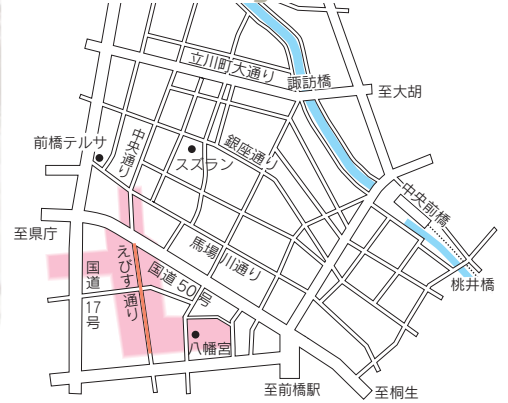
**ボ** **ク**：そういう事があつたんだあ。それにしても、本町通りは昔と同様、往来が激しいし、商業資本の基盤には変わりがないとすると、このまちは昔の記憶を引き継いでいるんだなと思っよ。

**おじいちゃん**：では、次回は連雀町に行ってみよう。



# 連雀町

## Renjaku-cho



大正時代の前橋八幡宮

**おじいちゃん**..今日は連雀町に行ってみよう。

**ボ**..ク..なんて読むの？

**おじいちゃん**..「れんじやくちょう」と呼ぶんだよ。

**ボ**..ク..いつからこの町名があるの？

**おじいちゃん**..江戸時代からあるんだけど、江戸初期は前代田村とっていったんだよ。

**ボ**..ク..今はどこになるのかなあ。

**おじいちゃん**..先日、訪れた本町の西端一帯と国道50号線の一部である本町通りの南側にあるえびす通り、前橋八幡宮周辺の界限だね。

**ボ**..ク..なんでそういう町名になったの？

**おじいちゃん**..連尺とは、荷を背負う背負こ(しよいこ)という運搬具、または荷をかつぐ連尺紐のことで、この荷物を背負って各地を往来し商いをする人々を指すようになり、やがて、連尺に荷を繋げたまま荷物を下ろし、そこに店を出し、集まり住んだまをいうようになったんだ。

**ボ**..ク..でも、連雀と連尺は漢字が異なるよ。

**おじいちゃん**..本来、連雀とは渡り鳥の雀(すずめ)を指していて、連尺を用いる行商人が渡り鳥のように見えた事から、連雀と連尺の同義語として用いられるようになったんだ。

**ボ**..ク..特に名の知れた商人がいるの？

**おじいちゃん**..町人の始祖といわれ、連雀頭を命ぜられた木嶋助右衛門という人がいて、連雀町に居を定めたそうだよ。以来、商人が店を出すときには、必ず木嶋家に挨拶をしたという。

**ボ**..ク..当時の連雀町の様子を見たいよ。

**おじいちゃん**..先日、訪ねた本町のように、連雀町は二と七の日の市が開かれたんだ。ただ、こ

の市はやがて本町の四と九の市や新興商人の出現により脅かされ、本町以外の市開設が禁止され、例外として本町に接していた連雀町は、本町の市の連続として、その余り品の市場を立ててもよいとされる状態になったんだ。でも、連雀頭である木嶋助右衛門は市神を守護して市場を統制、支配し、近郊からの野菜市となって賑わったそうだよ。

**ボ**..ク..まちに大きな神社があるね。

**おじいちゃん**..まえばしの総鎮守である前橋八幡宮だね。当時八幡宮の拝殿は、現在のNTTあたりにあり、本殿は前橋南部にあったというよ。城下町第一の要地として前橋城の大手門を築くにあたり、拝殿が城内に入ってしまうので、これを機会に拝殿と本殿を合わせて現在地に移したんだ。元々、ここは古墳塚で、付近は諏訪の森と呼ばれる杉山で諏訪神社が祀られてあった。だから、今もそうだけど社殿は古墳の墳丘に営まれているようだよ。

**ボ**..ク..八幡宮はまちと何か関係があるの？

**おじいちゃん**..このまちは、城下町発祥の地であり、前橋八幡宮の門前町として、特に連雀町の有名な夜店やえびす講、朝市などで賑わったんだよ。

**ボ**..ク..このまちは、行商人を束ねる人がいたり、

大手門として城を守る大切な場所であったり、まえばしの総鎮守様が祀られてあったり、まえばしには欠かせないところだったんだね。

**おじいちゃん**..では、次回は田町・相生町に行ってみよう。